

1. 日時 平成 28 年 7 月 20 日（月）15:00～17:00

2. 場所 大阪府立桃谷高等学校 会議室

3. 出席者（委員）

中島順次 会長

梅田和子 委員

花山吉徳 委員

田口直美 委員

4. 主な内容 平成 28 年度学校経営計画について

5. 説明・協議

【多部制単位制Ⅲ部の報告】

①本校の概要

在籍 …290 名

クラス…計 11 クラス

- ・中卒生が 25%、残り 75%が編転生及び夜間中学校出身生徒。夜間中学校卒の生徒が 290 名中 36 名
- ・昨年度の卒業は 45 名。内、学校斡旋就職が 12 名、大学進学は前橋工科大学 1 名を含めて 3 名。
- ・昨年度の 30 日以上の長期欠席者は 211 名、単位習得率は後期で 50%を切り 47%。

②平成 28 年度学校経営計画及び学校評価

（1）確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

- ・今年、新たにパッケージ研修支援を行い、教員の指導力、子どもたちの学力の向上を考えていく。

（2）授業規律の確立。

- ・今年度は授業規律について教員の共通認識を持ち、全員で取り組んでいける内容を考える。

（3）パッケージ研修Ⅱ

- ・Ⅲ部の教科指導の課題把握を行い、指導の在り方について共通理解を図る。
- ・代表者による研究授業を実施。
- ・初任者 3 名の研究授業を実施予定。
- ・最終的に 1 年間の総括や次年度の方針を立て、中長期的に授業改善を行っていく。

（4）キャリア教育進路指導

- ・新たな取り組みとして、進路指導においてキャリアカウンセラーに年間 7 回来ていただく。

（5）豊かな心・社会の一員としての自覚の醸成の取り組み

- ・学年単位の総合的な学習の時間実施、集団での取り組み。
- ・挨拶運動の実施。
- ・性に関する講習会。妊娠・出産後の社会的な保障等についても学ぶ。
- ・フレッシュマンセミナーの実施。

→新任 4 年目までの教員を対象とした研修。初任者が課題提案型のプレゼンを行う。

③平成 28 年度校務分掌組織について

- ・ネットワーク委員会を広報担当係に改変。
- ・生徒支援委員会の発足。
- ・人権教育企画担当者会議を委員会として設置。

④補足等

- ・昨年度、軟式野球部が全国大会に出場。

【多部制単位制Ⅲ部の協議】

①フレッシュマンセミナーは今年度既に何回か開催されているか。

→7月14日に、本校を通して将来大阪府の教育を担える人材となるようにという主旨で第1回を開催した。

【通信制課程の報告】

①本校の概要

在籍 …2129名。うち活動生徒1826名。

クラス…計47クラス（昼間部28クラス、日夜間部19クラス）

- ・昼間部は18歳までの生徒が多い（平均19.3歳）。日夜間部は20歳以上の生徒が多く（平均22.2歳）在籍。
→自学自習の困難な生徒が多い。
- ・平成25年度から中卒の昼間部の定員を200名から230名とし、日夜間部を30名減らした。
- ・卒業生は平均すると約350名程度。
- ・今年度の就職は47名。進学者58名。自宅待機者が113名おり、ソーシャルスキルトレーニング等の講座を実施。

②平成28年度学校経営計画及び学校評価

（1）めざす学校像

- ・自分のペースにあわせて学習できる学校。
- ・教育課程の見直し、個別の教育支援計画の充実、生徒の進路の充実、の3点の編成。
- ・確かな学力の育成。
→どのように生徒の学力を捉えたか？
- ・研究協議を実施。教育振興基本計画のセーフティーネットを踏まえた機能強化。
- ・出席管理及び校務処理システムに関する委員会の発足。
- ・需要が少ない科目は減らす方向。
- ・初任者などの研究授業への参加、研修会や報告会の実施。
- ・NHK講座の活用。
- ・生徒支援及び相談体制の強化充実。
- ・ほとりカフェの継続。
- ・専門医、SCとの連携の強化。
- ・進路指導の充実。
→A¹ワーク創造館との連携。障がいのある生徒の進路実現の支援体制の確立をめざす。
- ・情報発信、広報活動も継続。

（2）「ほとりカフェ」昨年度総括

- ・昨年度校内でイベントを実施。4回ほど。
- ・H28年度は予算の関係上9月以降の実施。時期は未定。
- ・反省を踏まえ、スクーリング中は開設しない。

- ・支援を必要とする生徒を抽出。今年度は33名中15名の個別の教育支援計画を作成。他の18名は今後必要ならば作成する予定。

(3) キャリア教育支援体制整備事業について

- ・進路指導部とA¹ワーク創造館が中心に行っている。
- ・昨年度は声劇体験、しごと応援講座、ビジネスマナー講座を実施。
- ・今年度は、家庭の事情、持病、障がいのある、またはその可能性がある等の本校の生徒の実態に応じて対応。
- ・卒業後の進路未決定状態を防ぐ。
→A¹ワーク創造館を中心に、社会福祉法人ヒューマンライツ福祉協会、支援センター「i s h」、生活訓練専門のスタッフと連携。
- ・しごと応援講座等も引き続き行う。また、個々に応じたキャリア教育支援体制を考えている。

③補足

- ・府の校務処理システム
→通信制課程にはあてはまらず、独自に行っている。

【通信制課程の協議】

①初任者や経験の少ない教員の研修について

→通信では「若桃塾」として行っている。初任者は毎週木曜日18～19時に実施。月に1回は4年目までの教諭も参加。准校長、教頭、各分掌長が1月まで順番に話し、2月に初任者の発表。5年目の取り組み。ベテランの先生も参加できる。

【多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部の報告】

①本校の概要

在籍 …550名

- ・毎日登校している生徒は6割。
- ・毎年、卒業生が100～120名程度。
- ・進学する生徒が50%前後、就職する生徒が15～20%程度、残りがアルバイトまたは進路未定者。

②平成28年度学校経営計画及び学校評価

(1) 取り組み

- ・今年の入試でアドミッションポリシーを公表。募集定員の50%を筆記試験ではなく、アドミッションポリシーに合致するかどうかで決定した。
- ・4・5月は生徒指導を中心に授業規律を守らせることを徹底。
- ・桃谷プロジェクト(桃プロ)の取り組み。
→支援教育、教育相談、規律指導の連携。
→全教員がキャリアカウンセリングの観点で生徒を育てる。生きる力の育成。
→中期的目標として3年計画になっている。次の30年度に向けて、更に上の目標を設定。
- ・進路未定率の減少をめざす。
- ・中期的目標としてわかりやすい授業を80%以上、気軽に相談できる先生がいる割合を75%以上にす
る。
- ・中期的目標として保護者懇談の実施率を前年度比10%増をめざす。
- ・HP並びにメルマガでの情報発信。
- ・コミュニケーションタイムの実施。評価指標はアイデアの採用件数。

- ・メンター制度。
→研修を10～12回行う予定。
- ・防災計画の見直し。課程・部の連携を取る予定。
- ・入学生の意識や自己有用感が一年後にどの程度変化しているかを客観的にデータで確認。
- ・評価指標にICT活用について生徒評価70%、発表機会60%以上という指標を設けた。
- ・基礎的汎用的能力を育成する授業をテーマにしていく。
- ・授業アンケートの「知識、技能が身につけている」という項目の全教科平均を3.2以上と設定。
- ・支援計画を作成する生徒のピックアップ。今年度は12名の生徒が対象。
- ・魅力ある行事への工夫改善。校外活動として実施していた映画鑑賞を海遊館に企画変更した。
- ・図書館の居場所作りを進め、利用者増をめざす。

【多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部の協議】

①ホームページの発信内容について。

→学校でやった行事や体育祭、進路行事の掲載。その他、講座別学習での取り組み、クラブ活動や表彰されたものなど。保健だよりや、図書室のページも新設。日常的なものに関してはブログによって更新。

②教育的ニーズを把握する方法は何か。

→生徒の状態把握。全教員が意見交換を出来るような環境を整える。教育相談の担当者を支援の検討会議に入れての情報共有など。